

令和5年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議 議事要旨

- 開催の日時 令和6年3月4日(月) 14:00～15:20
- 開催の場所 富山県教育文化会館 505 会議室 (ハイビジョン学習室)
- 運営委員総数 16名
- 出席運営委員 13名

(1) 出席者の氏名

中崎圭子、藤田公仁子、荒井克博、本田正則、上埜真知子、野坂真澄、打越山詩子、
笹田茂樹、塚崎志津江、澤木 昇、遠藤直孝、堀田紀子、八十島元一

○本江学長開会の挨拶(要旨)

- ・運営会議は、昨年度までは本部の運営会議の他に各地区で実施していたが、今年度からそれを統合し、この本部会議に包括されることとなった。
- ・それに伴い、今回、新たに各地区の生涯学習団体協議会の会長様方にも加わっていただき、各地区の立場からご意見いただくこととしている。よろしくお願いいたします。
- ・県民カレッジでは先週から来年度の講座の募集を開始している。県民の皆様への期待もあり、多くの方から申し込みいただいている。
- ・例年、県民の皆様方それぞれが関心のある講座を受講していただいている訳であるが、受講後、「よかった」、「満足した」、また、「この後の生きる糧になった」という声を頂いており、企画運営してきた者としても大変嬉しく感じている。
- ・ただ、県民カレッジとしては、その状況に甘んずることなく、今後の講座の見直しはもとより、カレッジのあり方そのものについても厳しく見ていく必要があると思っている。

1 会議の概要

(1) 会長選出

- ・事務局から富山県民生涯学習会条例施行規則第5条第3項による会長の選出について、慣例に基づき「富山県生涯学習団体協議会会長」の荒井委員を会長に選出することが提案され、「全員異議なし」となった。
- ・荒井委員が会長に選出され、以降、荒井会長が議事進行。

(2) 職務代理者の指名

- ・荒井会長から、県民生涯学習カレッジ条例施行規則第5条第5項により会長が職務代理者を指名する規定であることが説明され、本田委員を指名。

(3) 協議内容

- ①会長が、「令和5年度実績、令和6年度予定」について事務局に説明を求めた。
事務局が資料に基づき説明を行った。
- ②会長が、「富山県民生涯学習カレッジの運営にかかる現状と課題」について事務局に説明を求めた。
事務局が資料に基づき説明を行った。
- ③会長が、現状と課題中「1 学習情報の収集・提供と学習相談への対応について」意見、
質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・「とやま学遊ネット」の中にある「とやま公民館学遊ネット」において県下の322ある公立公民館がホームページを整備し、活動状況等の様々な情報がアップされ、地域の方々に見ていただくことが可能となった。検索数が令和5年度は70万件に減っているということで、公民館学遊ネットに関しては、アクセスが増えているのか減っているのか、情報を提供いただけたら取り組みに繋げることができる。

(事務局)

- ・公民館の学遊ネットについては、昨年度1年間の検索件数が26万2,697件、今年度は1月末までで24万2,578件。まだ昨年度の件数には達してはいないが、ほぼ、それを上回る見込みである。

(委員)

- ・公民館の学遊ネットに関する各市町村のアクセス数、さらに各公民館のアクセス数などの情報もいただきたい。アクセス数の少ないところには何らかの手だてをとるなどの対応ができる。

(会長)

- ・公民館のホームページも開設され、ネットを通じて活用されているなど、学遊ネットが更新され、随分使い勝手が良くなっているようである。
- ・県民カレッジにとっては、強力なツールであり、この活用をどんどん進めていただければ、もっといろいろな情報が県民の皆様には伝わるのではないかと感じる。また、大型講座の機会などを通じて、学遊ネットの閲覧について、PRしていくと良いと思う。

④会長が、現状と課題中「2 多彩な学習機会の提供について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・P10の現状 共学講座については年齢的にはどれぐらいの方が多いのか。
- ・P11の課題については「若い世代に魅力を伝える必要がある」とのことであるが、特にこの辺りをターゲットにしていきたいというような思いはあるのか。
- ・新しい学び方の提供について、電子書籍の有用性は高いと感じる。その活用について例えば病院や障害者団体など、いろんなところに働きかけていく必要があると思う。

(会長)

- ・共学講座の状況であるとか、どの学習団体にとっても学校にとっても課題であるが若い世代、現役世代への働きかけ、受講者の増を図っていく工夫について、或いは、オンライン、ネットによる情報の配信、受講機会の充実などのご意見があった。事務局はどのように捉えているか。

(事務局)

- ・共学講座については各学校で実施しており、正確なところは掴んでないが、平日に行っていることから通年の講座と同じ課題を抱えている。
- ・子供向けに、体験型のものであれば参加しやすいのではないかとということもあって、子供は1回でも参加できるということにした。ターゲットは子供向けという講座にしてし

まった方がいいのではないか、もっと絞れるのではではないかとも考えた。

- ・忙しい子供はなかなか4回が4回とも参加するというのは難しいということもあり、夏休み中に1回だけでも来てもらい、県民カレッジに関心を持ってもらえば良いという思いで今回始めた。
- ・今後、新しい講座を作るにあたっては、完全に子供向けの講座も含めて検討する余地はあると考えている。
- ・オンライン配信については、これを始めた2年前はいろいろ問い合わせもあり、こちらもあり方をお教えしながら進めてきた。
- ・今年度の特徴としては、比較的高齢の方が多く70代以上の方でもお申し込みいただいている。
- ・オンラインについては、このコロナをきっかけに一気に広がってきている。今コロナが収束して、やはり対面で受けたいという方も当然おられる。その辺はニーズを探りながら、オンライン配信も続けていきたい。

(委員)

- ・子供向けの講座の開設については、前向きな取り組みなのか。

(事務局)

- ・カレッジとしては、子供も含めて、県民カレッジのことをよく知っていただきたいという思いを強く持っている。
- ・ただ、令和6年度すぐ講座にするというのは難しく、令和7年度以降となるが取り組みを進めていきたい。

(会長)

- ・子供向けの講座というのは大変いい考えだと思う。小学校低学年ぐらいだと、親御さんもついてこられるので、親御さん世代も巻き込む機会となる。そういった分野の拡充は重要なことである。
- ・共学講座についてのご質問があったが、今もそうかもしれないが、以前も講座・授業内容によって、受講者の希望が偏っていた。今は、どうか。今後の予想もお聞かせいただきたい。

(事務局)

- ・新川地区では比較的授業料が安く専門の方が講師となる美術、書道、ダンスなどは人気が高く、定員になり次第締め切らせていただいている。

(会長)

- ・実務系は結構人気があるということであるが、富山地区の数学などはどうか。

(事務局)

- ・数学については、年2〜3名ほど受講をされている。特に70代ぐらいの方が受講されているが、やはり1年間の授業ではなかなか理解できないため、2年3年と続けて受講され中身を深めていくという方が主である。

(委員)

- ・コロナ禍を経て、今後対面とオンラインの両輪でいくというのは、どちらの生涯学習

機関でも当然のことである。コロナ禍により新たな学びが開拓されたというのが現状だと思う。

- ・新しい学びのツールとしてオンデマンドが取り沙汰されている。自治体の生涯学習センター系の講座でオンデマンドが人気を博している。
- ・受講者の幅、また重要度を考えていくと、オンラインと対面だけでは、この多様な社会で、なかなかもう今後の伸びが難しいのではないか。
- ・カレッジのオンデマンドに対する現状における議論、研究、また、踏み切れないということであればその理由を伺いたい。

(委員)

- ・公民館でもやはりコロナ禍で研修会とか大会は全部人数制限をかけ開催していたが、すべて録画し、オンデマンド配信限定公開をした。この手法はやはりそれなりの効果があったと感じている。
- ・また、カレッジのオンライン講座において受講者が双方の質問や意見が言えるかどうかを教えて欲しい。

(事務局)

- ・当カレッジで行っているのは、リアルタイムのみのものとなっている。理由としては、受講者との交流ということに重きを置いており、その場で質問をオンラインの方にも入っていただくという形で行っている。
- ・ただ、どうしてもリアルタイムだけであると、時間的な制約の関係で参加できない方もいらっしゃることも事実である。
- ・今後の広がり考えた場合、オンデマンドが非常に有益であることは認識している。今後、今いただいたご意見をもとに、学内で検討していきたい。

(会長)

⑤会長が、現状と課題中「3映像による学習支援について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・1人1台端末は探究活動や調べ学習においてとても有効なものだと思っている。映像センターの映像の活用も非常に有効である。認知度を高めるためにも、学校連携は効果的だと感じている。
- ・親子シアターに関しては、今、本当に小さな子供でもYouTubeが見放題であり、テレビでも映画でも好きなときに好きなものを見られるという環境の中でわざわざ映像センターへ足を運んで、親子で見に来るだけなのか、それとも付加価値があるのか、工夫があるのか伺いたい。

(事務局)

- ・親子シアターは家を出てこの場に出かけてきて、タブレットではなく大きいスクリーンで見る体験自体に一つ価値があると思っている。

(会長)

- ・YouTubeに取りつかれている子供たちがたくさんいる。

- ・どこまでが本当なのか、どこまでがフェイクなのかわからない情報が、錯綜しているがそれでも見てしまうというところがある。
- ・わくわくシアターは、本当に素晴らしい作品ばかりであるが、もっともっと口コミでその良さを親御さん子供さんに知っていただいて、大画面でみんなで鑑賞するよさというものを広げていけば良いと思う。

(委員)

- ・なかなか最初から親子でということが 大変難しい家庭もある。
- ・砺波地区センターで、放課後児童クラブのお子さんがその引率の方と一緒に大画面で見るという体験をしておられる。このような取り組みは非常に良いと感じている。
- ・放課後児童クラブは、振替休業日とか夏季休業日においては1日預かっているため、とてもいろいろな活動を工夫して実施されている。
- ・そのように、親が難しいところをフォローするような機会を捉え、子供たちの体験が広がっていくことが望ましいと感じている。

(会長)

- ・放課後児童クラブというのは大変着眼点がすばらしい。いろんなところで、今のアイデアを生かしていただければと思う。
- ・私の友人でも、老人クラブのお世話をされていて、どうやって楽しませようかということで、映像センターでDVDを借り出して鑑賞してもらっていると聞いている。
- ・いろいろな世代の方々が利用していると思っていたが、放課後児童クラブがあるというのは良いこと。クラブの指導者の方にPRしていただきたい。

(事務局)

- ・砺波地区センターで映像センターの資料を利用した上映会の実施は大変よい方法だなと思っている。
- ・他にも公民館での上映会、夏祭りであったり、児童クラブであったり、或いはデイサービスでの利用であったり、そういったところでも利用もしていただいている。さらに活用を広げられるようにしたい。
- ・大きいスクリーンで見られることはとても価値があることだと思う。機器も貸し出しているのをたくさん利用してもらえればと考えている。

(委員)

- ・ここ2、3年で、富山県のすべての自治体が、地域学校協働活動を始めていると思う。
- ・その中で、放課後教室であるとか、土曜日授業とか、そういうのを交流館で実施するケースが増えてきている。
- ・映像の配信に限らず、このカレッジのいろいろな講座、或いはリソースを、そういったところにも利用していくというようなことも、広げて考えていけるのではないかと思います。

(事務局)

- ・PR方法を考えていきたい。

(委員)

- ・PTAでも保護者同士の会合において、親学び講座なども開催しているが、その場で使

える映像とか、そういった話題の提供などをして、PRしていきたいと思っている。

(会長)

- ・ぜひ活用してあげて欲しい。

(会長)

⑥会長が、現状と課題中「4 学習交流や学習発表の支援について」意見、質問を求め概ね以下のような発言があった。

(会長)

- ・コロナの影響をまともに受けて、学遊祭ではステージ発表やお茶会ができなくなって、少し寂しい思いをしていたが、今年からステージ発表は開催できてよかったと思う。
- ・地区でいろいろと生涯学習のリーダーとしてお世話いただいている方々の4地区代表がいらっしゃる、高岡地区は如何か。

(委員)

- ・高岡地区は「ウィング・ウイング祭」を催しているが、高岡市の講座の方、志貴野高校の多くの関係者、それから私たち生涯学習団体も地区センターと一緒に運営している。
- ・一緒に運営することによって高岡の市民大学の方などに関わることができるようになった。また、いろいろな方たちの発表も見ることができる。
- ・昨今コロナが収束したような感があるが、やはりみんな練習する機会もなくなかなか発表される方も少ないが、5年度もたくさんの方が集まっていただし、楽しいひとときを過ごし、なんだかみんな元気が出て、6年度も頑張るぞといった感がある。

(会長)

- ・本県にはたくさんの生涯学習団体がある。10名程度のグループのもの、100名規模のもの様々であるが、それぞれ、何らかの形で発表する、或いは発表までいかなくても、積極的にお世話して関わるといような立場を、或いは機会を提供して差し上げることによって、さらに意欲が向上するということが実際あるようである。そういった事例など、紹介していただきたい。

(委員)

- ・富山地区において高齢化が進みコロナの関係もあり活動がやや行き詰まり、存続ということに不安を持っている団体がいくつかあるが、フェスティバルとか、そういう舞台で自分たちがやっていることの結果を披露する機会があると自分たちのやっていたことを振り返ることができ充実感がある。
- ・カレッジにおける学習機会の提供や情報提供など、応援していただいていることについては非常に感謝しており、これからもよろしくお願いしたい。

(委員)

- ・町内会において自遊塾の弦楽四重奏団の出前講座を利用し、来てもらった。
- ・聴衆は40人ほどの小さな公民館の開催ではあったが、みんな感激されその時に初めて自遊塾に関心を持っていただいた。
- ・運営会議委員の経験から、誰でも参加できる自遊塾のPRをすることができた。また、来年度の募集案内を町内回覧するなど身近なところから関心をもってもらうことが

必要と感じた。

(会長)

- ・自遊塾と共学講座は、本県の生涯学習活動の大きな特色、目玉である。おっしゃったような取り組みを活用し、自遊塾の活性化も促進していただければと思う。

(事務局)

- ・自遊塾の出前講座はこれまでは主に公民館等の施設で開講していたが、来年度は学校の方にも広げたいという話を聞いている。先ほどお話にあった放課後児童クラブやPTAでも活用いただけたらと思っている。

(委員)

- ・新川地区では、市町村で公民館まつりのような、それぞれの地区で発表会を行っておられ、それぞれの地区で大変盛り上がっている。
- ・そういう中から、私たちの仲間に入っていただいて、一緒に活動し、さらに地区の取り組みとカレッジの連携をなんとかつukれないものかという大きな願いを持っている。

(会長)

- ・オンデマンドの配信など多岐に渡るご意見をいただいた。カレッジにおかれては、十分ご検討いただき、今後に生かしていただきたい。委員の皆様方には、本当に実りある運営会議にいただいたことに深く感謝申し上げます。

○本江学長閉会の挨拶（要旨）

- ・学内でも工夫を重ねているが、このような機会に、様々な立場の方から、いろいろな視点でお話を伺えることは、大変貴重であると思っている。
- ・来年度の事業はほぼ固まっており、すぐ6年度に反映するには難しい部分や検討を要するものもあるが、事業を進めながら改善できるものもある。いただいた意見を1つでも実現できるように努力していきたいと思っている。
- ・受講者は高齢化しているが充実した人生を送っていただきたく、たくさんの受講を期待している。
- ・我々が一番腐心しているのは、このカレッジの存在を、1人でも多く、特に現役世代の皆さんに知っていただきたいということである。
- ・本日、いただいた意見を参考にしながらカレッジの運営を進めて参りたいと思う。皆様方には引き続きご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

以上をもって運営会議を終了した。